

## 長浜市森づくり計画の策定(改訂)の概要

## 現計画

◆目指すべき姿 : 『守り・育て・活かす』緑豊かな森づくりを目指します

◆基本方針 : 長浜市民による長浜市の森づくりを推進します  
～森林は市の貴重な財産として、市民全体で森林を守ります～

## ◆基本施策 (6本の柱)

## (1) 森林の大切さの啓発と魅力の発信

森林の大切さや魅力を情報発信し、森林の重要性について理解を深め市民の関心を高めることを推進する。

## (2) 市民が参画する森林づくり

森林づくり団体、市民団体、森林所有者、企業などが主体的に里山の保全活動を実践することを推進する。

## (3) 次代の森林を支える人づくり

さまざまな世代で森林環境学習が進められ、森林づくりを支える人材の確保・育成を推進する。

## (4) 森林資源の利用拡大

長浜市産木材を公共施設、住宅または木質バイオマスエネルギー等への活用を進めるとともに適正な流通の確保を推進する。

## (5) 効率的な木材生産

森林境界の明確化を進め、施業の集約化や高性能林業機械により効率的な木材生産を推進する。

## (6) 多様な森林づくり

森林の公益的機能、病虫害対策または文化財等に調和した森林等、さまざまな森林づくりを推進する。

## ◆森林整備方法に関する基準

## 現状と課題

- 市民が森林に興味を持つための森づくり講座開催、備品整備、活動支援を実施してきたが、一部団体、市民に留まっている。裾野の広がりが少ない。
- 人工林での境界明確化が進まず、木材価格の低迷もあり、人工林の利用間伐が進まない。
- 全国的に木質バイオマス産業が脚光を浴びているが、安易な計画に設備投資の増など、将来的に不安を持っている。
- 公共建築物長浜市産材調達基金など創設し、長浜市産材の活用を見出しているが、設計、製材、業者などの木材建築の技術認知が低く、十分には活用されていない。
- 獣害被害が多い中、森林整備とマッチングした対策強化が必要。
- 巨木などの天然林の保全と活用について、多様な世論があり、保全と活用の両立が課題。
- 森林に携わるマンパワーの確保が必要。過疎地域が多い中での人的対策
- 集中豪雨や台風をはじめとする自然災害に強い森林づくり、施設整備

## 長浜市森づくり計画の策定(改訂)

- 24年策定の長浜市森づくり計画をベースに、既存事業の課題を整理し、目指す姿や基本施策の見直し
- 次期5ヶ年計画として、木材自給率50%を睨み、林業事業体の再生、人材育成を主体としたい。
- 川上、川中、川下が一貫性となった長浜市モデルの枠組みを検討したい。
- 人工林の間伐推進、里山整備など市民周知、補助の活用についてPR冊子の作成をしたい。